

8050

生年月日 本籍地 現住地	時 歴	職 意	記事
第百三海軍工部現地採用工員調書	二番工員 保用年月日 保用前 保用後	給料(日給) 昭和二十年六月十九日 時 分	戦死以外、消息 戦死、消息 戦死、消息

66-14

1135

7846

職年 月日 籍地 不籍地 現住所 （多住者）	略歴	遺書	記事
昭和二十二年七月一日 二等工員 （昭和二十二年七月一日）	昭和二十二年七月一日 給與（日給） 昭和二十二年七月一日 昭和二十二年七月一日	昭和二十二年七月一日 昭和二十二年七月一日 昭和二十二年七月一日 昭和二十二年七月一日	昭和二十二年七月一日 昭和二十二年七月一日 昭和二十二年七月一日 昭和二十二年七月一日

66-20

[illegible]

65-11

[illegible]

1937

21-9-15 公義

言事

滿
惠

明正

本籍地

漢西三海軍工作部現地採用工員調書

蘇易簡理政

268

[illegible]

2.449

訓事

瑞
惠

野望

縣志	卷之	一	地理	本籍地	生年	民	田	名
----	----	---	----	-----	----	---	---	---

策百三海軍五作部現越梯甲正員調署

三才圖會

全 部 全

今

10

1

1

保用前

採用年月日

給粉一斗給

品名

邊所

成器有

列
理
卷
性
所

一 此名

卷之四

與
賞
生

THE

第百一十五卷 昭和十九年十一月五日（癸卯）

卷之五

昭和二十年六月五日 時 令

歌
死
（
井
東
山
集
）

此律賓 廿一

蒸

100

1. The first step in the process is to identify the problem or issue that needs to be addressed. This involves gathering information and understanding the context of the problem.

10

有（按唐書二名）

卷之六

100

(玫瑰同)

17049

2426 ✓

(古語)

159-19

具地吉順員部察務縣才一圖查係按

現住所

元等級

七

氏名

入續冊

本

題一現

所

等
級
氏

名入籍番号

所聘名

大張卷

年月日

179

特技

年
月
日

吳昌碩

未帰還者を捜す

死没の場合は死没年

死の場か、は病死か、

死役の場所

死
沒
狀
沉

貴殿と共にいつ



かき
あ
り

意或女曰

ふりて
もさる

人車

大
之
一

性

卷一 記

昭和二十五年中旬より六月中旬まで、同主因による

戰死

六〇五 龍溪神地 又八二 山中

下河以李華
蘇軾題

30-8-16 愛

註 此處告人々本入りしは書物少許、
其を在平紙に一冊を綴じ、

7267 21.7.15 公表

陸軍 生年月日 本籍地	海軍 生年月日 本籍地	陸軍 生年月日 本籍地	海軍 生年月日 本籍地	陸軍 生年月日 本籍地	海軍 生年月日 本籍地	陸軍 生年月日 本籍地	海軍 生年月日 本籍地	陸軍 生年月日 本籍地	海軍 生年月日 本籍地	陸軍 生年月日 本籍地	陸軍 生年月日 本籍地	陸軍 生年月日 本籍地
陸軍 二等工員	陸軍 二等工員	陸軍 二等工員	陸軍 二等工員	陸軍 二等工員	陸軍 二等工員	陸軍 二等工員	陸軍 二等工員	陸軍 二等工員	陸軍 二等工員	陸軍 二等工員	陸軍 二等工員	陸軍 二等工員
陸軍 二等工員	陸軍 二等工員	陸軍 二等工員	陸軍 二等工員	陸軍 二等工員	陸軍 二等工員	陸軍 二等工員	陸軍 二等工員	陸軍 二等工員	陸軍 二等工員	陸軍 二等工員	陸軍 二等工員	陸軍 二等工員

40-15

1905 8747

略歴		職歴		記	
採用年月日	採用前	給料(日給)	職名	職歴以外、諸君	給料
昭和二十年六月十四日	昭和二十年六月十四日	昭和二十年六月十四日	第一等海軍工務部	昭和二十年六月十四日	昭和二十年六月十四日
昭和二十年六月十四日	昭和二十年六月十四日	昭和二十年六月十四日	第二等海軍工務部	昭和二十年六月十四日	昭和二十年六月十四日
昭和二十年六月十四日	昭和二十年六月十四日	昭和二十年六月十四日	第三等海軍工務部	昭和二十年六月十四日	昭和二十年六月十四日
昭和二十年六月十四日	昭和二十年六月十四日	昭和二十年六月十四日	第四等海軍工務部	昭和二十年六月十四日	昭和二十年六月十四日
昭和二十年六月十四日	昭和二十年六月十四日	昭和二十年六月十四日	第五等海軍工務部	昭和二十年六月十四日	昭和二十年六月十四日
昭和二十年六月十四日	昭和二十年六月十四日	昭和二十年六月十四日	第六等海軍工務部	昭和二十年六月十四日	昭和二十年六月十四日
昭和二十年六月十四日	昭和二十年六月十四日	昭和二十年六月十四日	第七等海軍工務部	昭和二十年六月十四日	昭和二十年六月十四日
昭和二十年六月十四日	昭和二十年六月十四日	昭和二十年六月十四日	第八等海軍工務部	昭和二十年六月十四日	昭和二十年六月十四日
昭和二十年六月十四日	昭和二十年六月十四日	昭和二十年六月十四日	第九等海軍工務部	昭和二十年六月十四日	昭和二十年六月十四日
昭和二十年六月十四日	昭和二十年六月十四日	昭和二十年六月十四日	第十等海軍工務部	昭和二十年六月十四日	昭和二十年六月十四日

40-17

死亡現認 忘死書

本籍地

現住所

所属部隊 三施設軍属工兵

隊

死亡年月日 昭和 20 . 6 . 24

死亡場所 比島ミナト木洲カハネントノ耕地

死因 戦死

死亡原因

昭和十八年十月一日比島ミナト木洲カハネノ三施設工兵
工員として採用勤務し居たが二十二年四月頃敵上陸以來
は戦事要化し六月二十四日敵の追襲砲被弾により全身
被弾傷を受け戦死

右戦死の陳同場所付の現認しただけ遺骸を
埋葬処理致し一ち一大事相違ありませ

現認者住所

所属部隊 三施設軍属工兵

昭和 36 年 11 月 28 日

二本籍地

證明書

一代名

年 月 日 星

右ノ者比島カ心方在陸中一〇三施設部軍端ト
シテ採用サレ作業中昭和二十年六月二十五日カ
ニ於テ敵砲彈ノ爲メ戰死シタルフトヲ證ス

昭和二十一年六月十五日

一〇三施設部現地採用者(土工員)

現住所

申告者

(妻)

保 護 人

保 護 人

寮長